

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年1月24日（日）

主 題：「離散の寄留者」

—選ばれた人々—

テキスト：1ペテロの手紙2章21－25節

## はじめに

- ・私たちは昨年3月1日から第1ペテロの手紙を通して、主の御声を聞いて、早くも10か月が経過しました。そして、コロナ禍は次第に拡大して今日にまで至っています。教会では、この約10か月間にさまざまな行事がありました。その度に、この書簡を通しての学びは中断してしまいました。
- ・最後にこの書簡から主の御声を聞いたのは、昨年11月8日でした。それからアドベント、クリスマス、元旦、新年とつづき、今やっとこの書簡に戻ることができ感謝しています。
- ・これだけの月日が経過すれば、はじめの頃の内容、そして最後（2か月前）の内容でさえ、私たちは鮮明には記憶していません。そこで今日は、その長いブランクの後ですから、ここまでの20回の説教から語りたいと思います。そして、次回から、その先へ進みます。
- ・そこでまず覚えてほしい点は、この書簡の発信人はペテロ、受取人は**離散したユダヤ人クリスチャン**であったことです。ペテロは、彼らは①「選ばれた人たち」、②「寄留者」、③「離散した民」であると、3つの特徴を述べました。
- ・彼らはクリスチャンであり、ユダヤ人であることから、当時大きな迫害を受けました。すなわち、この書簡は苦難な中に置かれたユダヤ人クリスチャン書かれたものでした。
- ・苦しみと困難の中で、彼らはどのような姿勢で生きるべきかが問われました。彼らの信仰姿勢は、どんな状況に置かれたとしても、ペテロは①**神を信頼すること**、②**神に全てのことをゆだねること**、を説きました。1ペテロ  
5:7 **あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。**
- ・ペテロは、いろいろな角度から、このみ言葉を説明してきました。  
そこで、私は10月4日、10月21日の2回に分けてお語りした、テーマ「**たましいの牧者のもとに**」から、もう一度、主の御声を聞いてまいりたいと願います。聖書箇所は1ペテロ2章21－25節です。

## 大切なポイント

### 1. イエスが受けた不当な苦しみ

2:22 **キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。**

- ・まず、私たちはイエス・キリストがどのように苦しめられたかを知る必要があります。

#### 1) イエスは当時、危険人物とされた

- ・主イエス・キリストはゲッセマネの園で捕らえられ、大祭司カヤパの官邸に連れていかれました。そこで宗教裁判を受けました。大祭司や議員たちは、神を冒瀆する言葉として、死刑の判決を下

しました。

- ・ペテロは2章で、「**キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。**」(2:22)と記しています。ペテロは約3年間、イエスとともに生活をした人です。文字通り寝食をともにすれば、人の弱さや欠点、独りよがりや自己中心であることが、誰でも見えてくるものです。しかし、ペテロは「**キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。**」(2:22)と言いました。
- ・そのお方が当時、危険人物とされました。そして時の権力を持つ「サンヘドリン」(ユダヤ最高議会)で、「死に値する」とみなされました。これがイエス様にとって、覚えてほしい1点です。
- ・イエスは「死に値する」とされ、その後どのような取り扱いを受けられたのでしょうか。⇒「不当な苦しみを受けられた」
- ・私は法律の専門家ではありませんが、それでも非常に感情的になったユダヤ人たちが、イエスに対して、とった行動は不当なことでした。これがイエス・キリストが受けられたことでした。  
**2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、**  
ここで忘れてはいけないことは、イエスは「不当な苦しみ」に対し、抵抗されませんでした。
- ・ペテロはイエスが、苦しみをどのように受け止められかを述べています。

## 2) イエスは苦しみを耐え忍ばれた

**2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。**

### ① イエスは耐え忍ばれた

- ・主イエス・キリストは、その苦しみを耐え忍ばれました。  
**2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、**
- ・十字架にかけられた犯罪人たちは当時、自分を十字架につけた人を呪ったそうです。囚人たちは、苦しい息の中から、自分を苦しみに合わせた人々を呪いました。それは報復でした。一般的に、人間はそのような抵抗をするものですね。
- ・しかしイエスは違いました。イエスは、「神の子」の権威を使われませんでした。なぜ、でしょうか。⇒全人類のメシア「人の子」として遣わされたことを、自覚しておられたからです。ヨハネ福音書12章は次のように記録しています。  
**12:27 「今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ、この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ。**  
イエスは世に来られた目的を、はっきりと自覚しておられました。
- ・イエスは言われました。ヨハネ福音書15章  
**15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。**
- ・イエス・キリストは全人類の救いのために、耐え忍ばれました。

### ② イエスの十字架上のことば

- ・主イエスは十字架上でこう言われました。ルカ23章  
**23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」**彼らはイエスの衣を分けるために、くじを

引いた。

- ・イエスは、自分を苦しみに合わせた人々のために祈られました。  
それは「正しくさばかれる方にお任せになった。」からでした。全き信頼、⇒それは信仰の最高峰  
そこまで父なる神を信頼されました。ルカ福音書23章によれば  
23:46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。」でした。
- ・ペテロは次のように書きました。  
2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。
- ・イエス・キリストの十字架の死は、私たちが罪から離れ、義に生きるためです。ペテロは、イエスが受けられた打ち傷によって、私たちは癒やされた、と言いました。何ということでしょうか。私たちが全く知らないところで、創造神は救いの道を開いてくださいました。
- ・このお方こそ、私たちの「たましいの牧者」です。  
人は、このお方の元で真の赦し、平安、慰めを受けることができます。
- ・イエス・キリストの十字架によって受ける神の恵みは、いつまでも変わることはありません。そしてイエスの打ち傷によって、私たちは心が癒やされます。このことを信仰によって、受け止める人は幸いです。

## 2. キリストによって癒やされた

2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

### 1) 離散したユダヤ人クリスチャン

- ・ユダヤ人クリスチャンは各地へ離散し奴隷（サーバント、召使い）でした。奴隷の身分で、クリスチャンになった人たちもいました。
- ・彼らの中には、意地悪な主人から不当な扱いを受けていた人たちがいました。正しいことをしていながら、打ち叩かれる者たちもいました。不当に鞭で打たれた人もいたでしょう。イエス・キリストと同じように、きっと身体にみみず腫れや、あざができていた人もいたでしょう。ペテロはそのような彼らに、キリストの「内傷のゆえに、あなたがたは癒やされた」と書きました。じつにリアル（現実的）です。しかし、驚くべきことに、苦しみはありましたが、彼らには喜びがありました。

### 2) 彼らには喜びがあった

1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。

- ・どうして、彼らにはそのような喜びがあったのでしょうか。  
⇒ 信仰の結果である「たましいの救い」を得ていたから
- ・ペテロは言いました。

1:9 あなたがたが、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです。

- 確かに苦しみはあります。しかし彼らは、まことの神を知るようになった喜びを経験していました。神がどれほど大きな犠牲を払い、救いの道を用意してくださったかを知りました。そうしたことを通して、彼らは神による癒しを経験していたと言えるでしょう。それは喜びでした。

### 3) たましいの牧者のもとへ

2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

- ペテロは「あなたがたは羊のようにさまよっていた。」と述べました。彼は4章で次のように書いています。

4:3 あなたがたは異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、欲望、泥酔、遊興、宴会騒ぎ、律法に反する偶像礼拝などにふけりましたが、それは過ぎ去った時で十分です。

これらは、私たちが好んだ欲望、快樂のことです。私たちはその奴隷でした。

- 皆さん。私たちは神の形に似せて造られたものですから、良い羊飼いである神との交わりを失った状態では、どうしようもなく不安であり、空しいのです。

10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。ヨハネ  
そして更に言われました。

10:14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。ヨハネ

- イエス・キリストは、私たちの「たましいの牧者」です。そして「良い牧者」です。ここで「良い牧者」の特性を挙げてみましょう。

#### ① 迷った羊を探し出す

99匹の羊を置いてでも、迷い出た羊を探し出してくださるお方です。

私たち1人ひとり、かけがえのない存在として扱ってください。

#### ② 病んだ羊、傷ついた羊を手当する

良い牧者は、羊を置き去りにはしません。

#### ③ 羊を外敵から守る

命をかけても守ってください。いいえ、すでに1人子の命を犠牲にして、私たちを連れ戻してくださいました。

#### ④ 牧草地へ先導し、養う

- 皆さん。私たちはこのような「良い牧者」のもとに帰ることができました。それは、ただ神の恵みであります。感謝。

### 4) 監督者のもとへ

2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

- さらにペテロはここで、「牧者」を、「監督者」と置き換えています。なぜ、「良い牧者」を「監督者」と置いたのでしょうか。

- ・たましいの良い牧者は、羊1匹1匹に目を止めてケアしてくださいます。せっかく牧者のもとに戻ってきたのに、迷い出ることのないように見張っている姿です。それが「監督者」であります。
  - ・いかがでしょうか。私たちは「たましいの牧者であり、監督者である」神のもとに立ち返ることができたでしょうか。そして、自分が癒されたこと気づいているでしょうか。
  - ・あるいは、自分の病いや傷を隠しているでしょうか。教会にいる自分と、家にいるときの自分に違いがあって、心が不安定になってはいないでしょうか。
  - ・ぜひ、癒し主である「良い牧者」に、私たちの傷の手当てをしていただきますよう。癒してくださる主の御手に触れていただきますよう。その第一歩は、自分の気持ちを、主に正直に申し上げることです。 みことばをお読みします。
- 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。
- 2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。
- ・このみことばが、私たちのうちで、本当に実現するよう期待しましょう。

## ま と め

主 題：「離散の寄留者」

—選ばれた人々—

- ・離散したユダヤ人クリスチャンは。苦難の元にありました。ペテロは、彼らには「たましいの牧者」がおられると励ましを与えました。
  - ・神の御心は、次の聖句に現れています。
- 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。
- 2:25 あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。

\* God bless you!